

令和4年度草の根・人間の安全保障無償資金協力の  
「赤新月社病院超音波検査機器整備計画」  
機材供与式典

2024年4月22日、日本政府の草の根・人間の安全保障無償資金協力の枠組みにより実施された「赤新月社病院超音波検査機器整備」の機材供与式典が実施され、奥山駐ヨルダン大使が出席しました。

本計画は、1953年以来、近郊のワハダット・パレスチナ難民キャンプの住民をはじめとする貧困層に安価な医療サービスを提供してきた「ヨルダン赤新月社協会」に対して、超音波検査機器を供与し、同病院の医療サービスの質の向上及び貧困層患者の健康増進を図るものです。本案件実施により、年間約12,700人が同病院で超音波検査機器による迅速で正確な検査及び診断を受けられるようになり、広範囲の疾患や障害の早期発見に寄与することを目的としています。

同式典には、協会職員・関係者が出席し、サリーム・ハイル同協会事務局長からは、日本の支援に対する感謝の言葉が述べられました。奥山大使からは、本支援が保健サービスへのアクセスが著しく制限されている人々の状況改善に資することを期待する旨述べました。

日本政府は、1993年以降、草の根・人間の安全保障無償資金協力により、ヨルダン国内のNGO、学校、病院及び地方自治体に対して、累計159件、総額1,000万ドル以上の支援を行っています。

